



発行：NPO法人 みなとネット21

理事長 村上 雅昭

http://www.minatonet.min.gr.jp/  
mail: minatonet@hotmail.com

### みなとネット21

#### 「ニューズレター」創刊に

#### あたって

私達みなとネット21の活動は医師や看護婦、ソーシャルワーカーなど経験豊かな精神保健の専門家が世界各地で受け入れられている治療プログラム（OTPプログラム）をもとにしながら、地域で暮らすこころの病を持つ人達の生活をもっと充実したものにできるようなお手伝いをしていくボランティア・ネットワークです。

こころの病は見た目にはわかりませんが、こころの病を持つ人達は人付き合いやスムーズにおしゃべりをするのが苦手なため、病気や障害を周囲に理解してもらえないことが難しい事があります。確かに一部の地域では、積極的なリハビリテーションの取組みが行われ、生活の場や働く場、活動の場などの福祉施設作りが地道に行われてきました。

「アツプされる」ことが多くなっています。こころの病は「成人病」や「生活習慣病」と同じように誰もが罹る可能性のある病気にもかかわらず、まだまだ誤解や偏見が多く病院の外來通院以外はひっそりと暮らしている人も多くいます。

精神障害者福祉は精神障害者だけのためのものでしょうか？ 障害を予防・治療しようという事だけでなく、こころの健康を保持・向上させる活動をすすめていくこと、そして何より様々な形での障害を抱えながらも、全ての人が個人として尊厳を持って生きていく社会を作る事が大切です。

病気という体験は本人にとって一番つらい事に他なりません。病気によって物の感じ方が変わったり、やる気が出なくなったり、人付き合いが苦手になるなど二次的に生じる影響があります。そればかりか、病気になったことでこれまでとは「別の人間」として扱われ、一時的もしくは永続的に社会との関係が途絶えてしまい大きな喪失感を持つたり、自尊心を失ってしまふ事もあります。親しくしていた友人が精神病に罹った自分を「人を傷つけたりする危険人物」と恐れるのではないかとさえ心悩ましていくことも少なくありません。病気は医学の進歩によって治療が可能ですが、社会との絆は容易に取り戻すことはできません。こころの病は身体の病と同じように、いつ、誰が罹るかわかりません。何よりも大切な事は、地域で生活するお互い同志が精神分裂病をはじめとする「こころの病」について正しい情報を知る事と理解し合う事ではないかと私達は考えています。私達は一般の人にはなかなかわかりにくい「こころの病」をめぐる問題を正確に社会に伝えていく事も大切な活動の一つであると考えるようになった情報誌を発行していきたいと考えています

### 「NPO法人」取得のご報告

NPOとは、Non Profit Organizationの略で、営利を目的とせず、利益を組織の維持や活動などに使う事を目的とした、民間が作る団体の事を指します。みなとネット21は任意のボランティア団体として発足しましたが、法人格を持たないために活動に不都合が生じることもありました。平成10年12月より施行された「特定非営利活動法人促進法（NPO法）」は、法で定められた分野の非営利活動を行う団体に「特定非営利活動法人（NPO法人）」という法人格を与え、その活動の発展を促進し公益の増進に寄与することを目的としています。みなとネット21は平成13年3月に東京都より特定非営利活動法人（NPO法人）として認証されました。

### ファルーン教授によるOTP トレーニングワークショップ開催

平成13年9月15（土）・16（日）に、みなとネット21主催による精神保健福祉の分野に従事している専門職を対象としたOTPトレーニングワークショップが、慶應義塾大学病院大会議室にて開催されました。当日は、休日にも関わらず40名の方の参加

があり、大盛況に終える事ができました。OTP（Optimal Treatment Project）とは、精神分裂病の治療・予防の研究の第一人者として知られるオークランド大学のファルーン教授がイギリス・バッキンガムでの地域中心型メンタルヘルスケア（パツキンガムプロジェクト）での実践をもとに提唱し、世界各国で取り入れられている精神疾患に対する包括的治療・援助技術です。この包括的治療アプローチは病気を抱えた本人だけでなく、家族や友人・同僚などの援助者に適切な介入を行うことが、再発率を優位に低下させるという実証的研究にもとづいています。家庭に限らず、ストレスが存在すると考えられる現実生活場面でも認知行動療法的介入を行い、周囲の態度変容も期待しています。

今回のスキルアップコースでは、初級編としてOTPの基本的考え方や問題解決技法を家族セツションのロールプレイを用いて実習し、2日間合わせ11時間という限られた時間の中で学ぶものとなりました。ワークショップ終了後、ファルーン先生を囲んだ親睦会においては、参加者同志の交流、ファルーン先生との有意義な意見交換を持つ機会となりました。また、ワークショップ終了後のアンケート調査では、「またこのような実践的な講習会を開いてほしい」「日本において実際にどのような進められているのか知りたい」という要望をたくさんの皆様からいただきました。OTPを地域で実践している私達みなとネット21での活動報告を含め、次回のワークショップを企画したいと考えております。

### 精神科リハビリテーション ワークブック

監修－イアン R.H.ファルーン+鹿島晴雄  
編著－水野雅文+村上雅昭  
著－慶應義塾大学医学部精神神経科  
総合社会復帰研究班

中央法規  
2200円（税別）

